

「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成30年4月2日

仕事の内容	認知症総合支援事業			
担当部署・課長名	高齢介護課	課	地域包括ケア推進係	課長名 伊野宮 崇

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。

【施策】 高齢者保健福祉の増進

(総合計画書 51 ページ)

予算名	4	地域支援事業費	3	包括的支援事業・任意事業費	5	認知症総合支援事業	1	認知症総合支援事業費
-----	---	---------	---	---------------	---	-----------	---	------------

1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。 介護保険第1号被保険者及び第2号被保険者	① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標) → 介護保険第1号被保険者及び第2号被保険者
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] 認知症になっても(もしくは認知症の人が)、住み慣れた地域で安心して暮らせるようにしたい。	② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標) → 不明
	③ そのために何をしましたか。 ①認知症の人やその家族を支援する認知症地域支援推進員を配置している。 ②平成30年度に認知症初期集中支援チームを設置するため、関係機関との調整や、認知症地域支援推進員とともにマニュアルの作成等準備を行った。 ③関係機関である地域連携型認知症疾患医療センターとの連携強化を図った。 ④認知症対策推進部会において、地域の実情を踏まえながら認知症支援に関する専門的事項についての協議を行った。 ⑤認知症地域支援推進員を中心に、認知症ガイドブックを関係機関や民生委員等地域の協力者に配布をした。 ⑥認知症地域支援推進員とともに、市民向け講演会や専門職向け研修会を企画し実施した。	③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標) → ①認知症地域支援推進員の配置数(予定数3) ②認知症地域支援推進員との連絡会の開催数 ③関係機関の会議等へ出席した回数 ④認知症対策推進部会の開催回数 ⑤認知症ガイドブックの配布数 ⑥認知症講演会・研修会の開催数

2 指標の推移	対象指標	①の数値	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成31年度目標
	成果指標	②の数値	50,995	51,538	52,092		
	目 標	②の目標値	不明	不明	不明		
		目標値設定の考え方					
活動指標	③の数値	①2 ②3 ③5	①3 ②34 ③9 ④3	①3 ②23 ③5 ④3 ⑤不明(800冊程度) ⑥市民向け講演会1・専			

3 経費	事業費(実績)	円	2,500,000	9,309,663	9,419,059	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外)年間単価は、8,253,000円 時間単価は、4,200円で計算してください。 【算出根拠】平成28年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)	
	財源	一般財源	円	487,500	1,831,155		1,836,718
		特定財源	円	2,012,500	7,478,508		7,582,342
		(うち受益者負担)	円				
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	0.5	0.5		0.5
		所要人数(再任用)	人				
	職員人件費(再任用以外)	円	4,116,500	4,133,500	4,126,500		
	職員人件費(再任用)	円					
	事業費+人件費	円	6,616,500	13,443,163	13,545,559		

この仕事における市の裁量 市の裁量は大きい

4 環境変化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。 認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けられるために、認知症の人やその家族に対する効果的な支援が行われる体制の構築等を目的に、地域包括ケア推進の取り組みとともに平成27年から開始した。
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。 高齢化率の上昇とともに、認知症の高齢者数は毎年増加している。

5 市民等の意見	この仕事に関して、平成29年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について
	認知症サポーターが、養成講座を受けた後、どのような活動をしてよいかかわからず困っている、という意見が認知症対策推進部会において寄せられた。

仕 事 の 内 容	認知症総合支援事業			
担当部署・課長名	高齢介護課	課	地域包括ケア推進	係 課長名 伊野宮 崇

6 市民協働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択しご記入ください。(複数回答可)			
	取り組んだ	取組手法	② 【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換(広報媒体:) ⑦後援・場の提供 ⑧その他()	
	(2)平成30年度に向け、さらに適した協働の形態とするために「考え」「気付いた」点をご記入ください。 認知症の人やその家族の支援の充実のためには、認知症サポーターの協力を得ることも考えていく必要がある。			
7 課 題	(1)平成28年度の課題についての解決に向けた取組や、事務改善など、平成29年度に実施したことをご記入ください。 平成29年度においては、認知症の早期受診早期対応のため、認知症初期集中支援チームの立ち上げ準備を行った。また、平成28年度に作成した「認知症ガイドブック」を、関係機関及び認知症の支援を行う人を中心に配布した。			
	(2)この仕事を振り返り、課題をご記入ください。 ・認知症対策推進部会での意見は多岐にわたるため、良い意見であっても現状を踏まえると対応が困難なものも見られた。これらの意見を事業全体でどう活かしていくかが課題であると感じている。 ・「認知症ガイドブック」は部数に制限があり、関係機関等一部しが配布ができなかった。			
	(1)仕事の方向性(「7 課題(2)」)を踏まえた具体的な改革・改善案など 課題に優先順位をつけ、取り組んでいく。 課題1つ1つについて、多様な可能性を考慮し、また当事者本位の解決方法を検討する。			
8 今 後 の 方 向 性	(2)上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等を具体的にご記入ください。 庁内及び関係機関との連携体制の構築			
	(3)改革・改善案による期待成果 上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。			
	成 果	成果を向上させる。	経 費	仕事の経費は維持する。